

産業建設常任委員会

委員会開催日 3月16・17日
(文責・山本芳久委員長)

今回、本委員会に付託を受けました案件は、承認1件、議案11件で、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

ここでは、特に審査の中で出された主な意見、要望などをお知らせします。

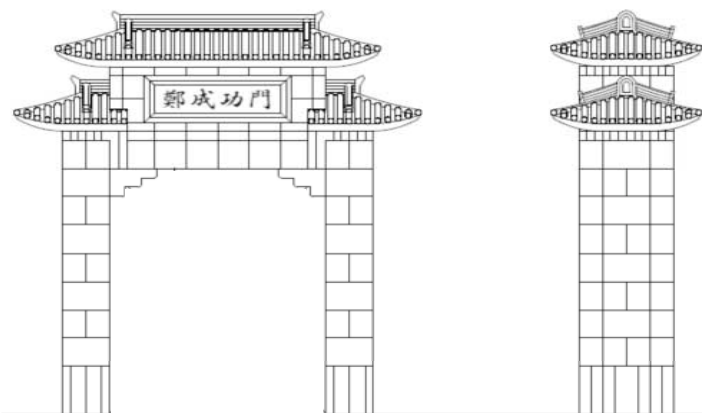
(一) は所管課名)

●議案第23号「平成27年度平戸市一般会計補正予算(第7号)」

▼鄭成功記念館山門整備事業

設計業務における簡易地盤調査により、予定地の地盤が軟弱であることが判明し、杭工事が必要となったことによる増額補正であるとの説明があった。

委員からは、現場は埋立地であり地盤が軟弱であることは予想できたのではないかと、当初予算内で納まるよう変更すべきではないかとの厳し



い意見が出された。これに対し、鄭成功記念館の入館者は増加傾向にあり、さらなる観光客誘致を図る上で、地元も期待しており、安全性も考慮し現在の計画で進

めたいとの答弁があった。委員会では、設計業務にかかる事務委託を受けているまちづくり課にも同席を求め、事業内容の確認を行うとともに、今後は、今回のような複雑ではない構築物についてはまちづくり課としても複数案を検討し、経済比較などの助言を行なって事業にあたるよう強く要請した。

【文化観光部観光課】

▼鳥獣被害防止総合対策事業

平成27年度のワイヤーメッシュ柵、電気柵設置にかかる国費の割合は96・22%となり、設置者の自己負担は3・78%となったことであった。国費が下がった場合の自己負担の考え方について質問したところ、国費が9割を下回る場合は、自己負担を1割に抑えるため市が助成を行うこととしている。

ただし、市の助成の上限を3割としていることから国費が6割を下回る場合は、自己負担が1割より増えていくことになるとの説明があった。

【産業振興部農林課】



▲ワイヤーメッシュ柵設置例

●議案第31号「平成28年度平戸市一般会計予算」

▼市道維持管理事業

市政懇談会等でも要望が多い、市道の陰切りについて平成28年度より地元住民と連携し取り組んでいくための予算600万円が計上されている。具体的には、自治会が要望を取りまとめ所有者の承諾書を添えて市に要望書を提出する。

市と自治会が伐採場所や実施日を調整し、市が高所作業車を使い樹木の伐採を行い、地元で樹木の収集、処分を行うものであるとの説明があった。

私有地から伸びる樹木は、基本的には所有者が伐採すべきものではないかとの質問に対し、基本的には所有者が伐採すべきものであるが、樹木が覆いかぶさり大木となり、高齢のため対応できなかつたり、所有者がいらないなど一定の条件を満たし、即時対応できない場合に、地元と協力して伐採を行う新たな取り組みであるとの答弁があった。

【建設部建設課】

委員からは、十分な成果が得られるか疑問な点もあるが、効果的な事業となるよう取り組んでもらいたいとの意見があった。

【文化観光部文化交流課】



▲オランダ人デザイナーとの協議の様子

▼重要文化的景観保護推進事業

同事業の春日拠点施設整備関係については、平成27年度に予算計上していたものの、用地交渉が難航したこと、事業認定が遅れたことにより整備できなかったために、平成28年度予算として改めて計上されたものである。

【文化観光部文化交流課】

委員からの指摘を受け、7月下旬に予定されている推薦書の提出に向けた最終的な国の文化審議会の動向を見極め進めていきたいとの答弁があった。



▼まちなかビジネスチャレンジ事業

市が借り上げた商店街の空き店舗で、新規出店を希望する者が、試験的な営業を行い、経営のノウハウを実践の中で学ぶことにより、開業を支援するものである。

チャレンジショップとして借り上げる空き店舗は1カ所所で、出店期間は1カ月から3カ月以内とし最長6カ月まで更新可能としているとの説明があった。



▼平戸ブランド東アジア進出事業

東アジア地域における平戸産品の販路開拓の可能性を検証するもので、プロモーション事業を展開しつつ、物流企業、関係団体等との連携のための調査、先進自治体の現地での商談会の視察、現地バイヤーとの取引条件などの調査研究を実施するものである。委員から、現在の職員体制

【産業振興部商工物産課】

委員からは、出店の内容によって店舗の要件が違うところもある。また、空き店舗等活用促進事業と関連するところもあるので、考慮して実施するようにとの意見があり、他地域の事例も参考に効果的な事業となるよう努めるとの答弁があった。

【産業振興部商工物産課】

委員からは、十分な成果が得られるか疑問な点もあるが、効果的な事業となるよう取り組んでもらいたいとの意見があった。

▼国際交流振興事業

同事業のうち「東西百菓の図とオランダ茶会補助金」は、400年前に海外との交流のあった平戸で、平戸藩に伝わる百菓の図を基にオランダ人がお菓子をデザインし、平戸の和菓子屋がそれを再現するもので、和菓子文化を通じ平戸のPRを行うとともに、開発後は平戸銘菓として販売を行なっていく民間の取り組みを支援するものである。

また、この事業は、長崎県21世紀まちづくり総合推進補助金を活用するもので県補助金が2分の1、市補助が4分の1、残り4分の1を実行委員会が負担するものであるとの説明があった。

▼重要文化的景観保護推進事業

同事業の春日拠点施設整備関係については、平成27年度に予算計上していたものの、用地交渉が難航したこと、事業認定が遅れたことにより整備できなかったために、平成28年度予算として改めて計上されたものである。イコモスの中間報告では、平戸の聖地と集落など潜伏期の価値が重視され、来訪者

